

はじめに

人と水、人と水道…

人にとって水はかけがえのない存在です。太古の昔から飲み水としてだけではなく、農作物を生産するために水は必要であり、古代文明も大河の流域で発展を遂げました。

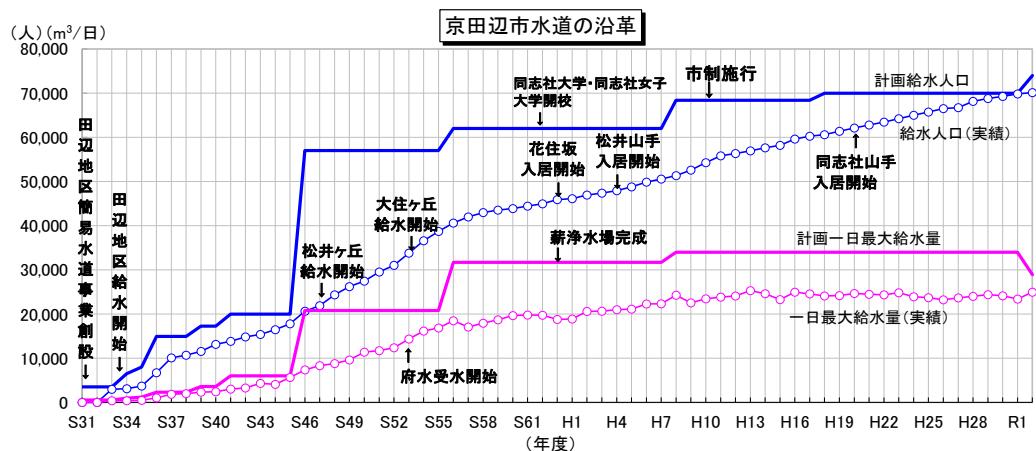
近代的な水道は、19世紀に入ってから急速に発達しました。これは、産業革命以降のヨーロッパにおいて、急速な都市化によってコレラなどの消化器系伝染病が流行し、その解決のために砂ろ過で処理した水道が効果を発揮したためです。日本でも公衆衛生の向上を目的として、近代的な水道が明治中期（明治20年、横浜市）に建設されはじめ、全国へと普及していきました。

京田辺市では…

本市域では、自然の環境に恵まれ地下水が豊富であることから、自家用井戸で生活用水を得ることができました。しかし、水質面の不安もあることから水道事業創設の要望が高まり、昭和31年6月に田辺地区から本市の水道事業（簡易水道事業）がはじまりました。

本市の水道事業は当初から地下水を水源としており、同じ地下水を水源とする関係者のご協力を得ながら給水区域拡張に対応する自己水源の確保を行ってきました。しかし、昭和40年代後半からの大規模な宅地開発は、給水人口と給水量の著しい増加をまねき、本市のみでは新たな水需要に対応することが困難な事態となりました。そこで、同じ問題を抱えていた3町（当時は田辺町、木津町、精華町）で京都府に水源開発と水道用水供給を要望し、京都府営水道（当時は府営第2山城水道）からの受水を昭和53年に実現しました。

その後も給水区域拡張時に分散配置された自己水源や施設の統廃合等による一体化、クリプトスピリジウム対策等の水処理機能向上に努め今日に至っています。



水道を取り巻く環境の変化…

水道を取り巻く環境は、近年大きく変化してきています。全国的にカビ臭など水道水質への不安から飲み水はペットボトルで補給する人が増えており、本市でも“水道ばなれ”が懸念されています。その一方では地震等の災害が頻発し、ライフラインである水道の大切さが見直されつつもあります。

事業経営の面では、節水意識の向上や節水機器の普及に伴って給水収益は伸び悩んでいますが、高度経済成長期に集中して整備した水道施設を更新する時期となり、その財源確保が課題となってきています。また、職員も高齢化してきており、技術継承等、組織を維持できるのかという不安も抱えています。

また、平成30年度には水道法が改正され、持続可能な水道事業の運営に対する責任がより一層増しています。

京田辺市水道ビジョンとは…

これまで、本市水道事業は市民の衛生的かつ快適なくらしを支えるため、安心して飲める水を安定して供給できる水道システムをつくりあげてきました。これからは、水道を取り巻く環境の変化に対応しつつ、次世代へ本市水道事業を継承していかなければなりません。その道しるべとして『京田辺市水道ビジョン』を平成25年2月に策定しました。

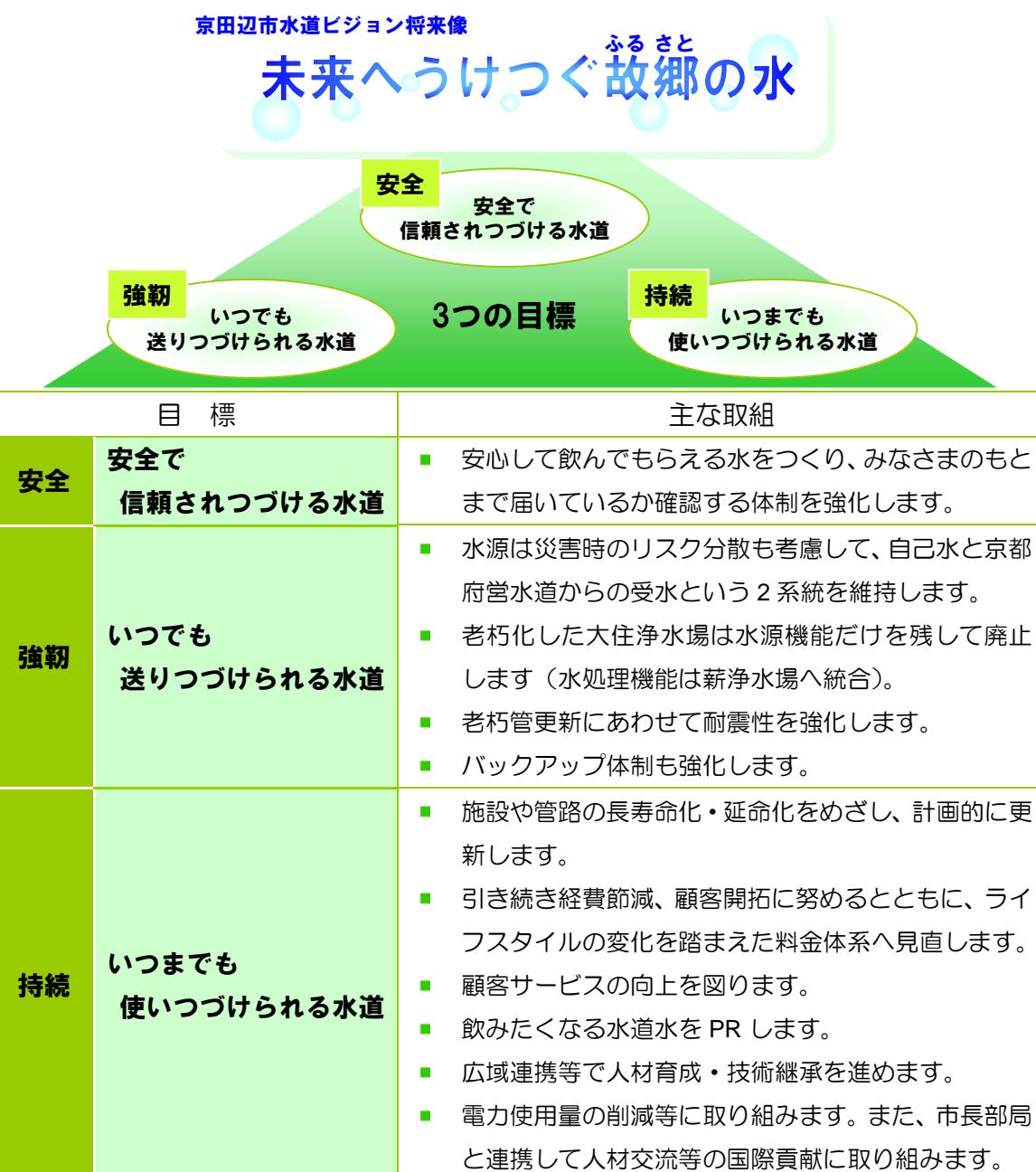
今回は、令和2年度に策定した京田辺市水道事業経営戦略と計画期間を合わせるため、目標年度を2年延長して一部改訂するものです。



これからの京田辺市水道事業…～将来像と目標～

現行の『京田辺市水道ビジョン』では、これからも市民の衛生的かつ快適なくらしを“水”で支えるため、途切れることなく水道を送りつづけることが水道事業者の使命であると肝に銘じ、その使命感を将来像である『未来へうけつぐ故郷の水』に込めています。

将来像を実現するための目標は、今回国的新水道ビジョンに合わせて3つとし、それぞれの目標を達成すべく全力で取り組んでまいりますので、みなさまのご協力をよろしくお願ひいたします。



これからの京田辺市水道事業…～水道のめざす姿～

『京田辺市水道ビジョン』は今回の一部改訂により、目標年度を令和 11 年度とし、そのめざすべき姿を示します。

